

八丈島文化協会 会報 第5号

八丈町三根4869-1 八丈島文化協会事務局 Tel/Fax 2-2833
HP: <http://www.8jobunka.jimdo.com/> e-Mail: bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp

第3回八丈島文化協会定期総会が開催されました



会場の富士見地区公会堂

記事は2頁にあります



いい活動してる^ネと評価される文化協会を目指して 会長(新任挨拶) 内山 江差夫

6月17日の第3回八丈島文化協会総会で、初代会長の浅沼享年さんの後任として会長に選任されました。

これまで文化の重責を担ったことのない素人文化人ですが、会員の皆さまと地域文化振興のために、微力ですがやれることを着実に実行しながら努力していきたいと思えます。文化協会と島の豊かな文化環境づくりのために、これまで以上のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

浅沼前会長は、八丈島に文化の華を咲かせ、誰もが等しく恵まれた文化環境の中で、豊かな日々を送れるように心をくだかれ、「みんなで仲良く協力して」が口癖のトレードマークだった優しい方でした。

良好な文化環境は地域の豊かな心を築くとも例えられます。この言葉が本物になるように、全理事が一丸となってまた会員の皆さんとも協力し合って頑張っていきたいと決意しているところです。

協会設立から2年が経とうとしています。協会をどのように運営していこうかと、不安だらけで右往左往の2年間でしたが、期待に少しでも応えようと頑張る理事の旺盛なボランティア精神と行動力、行政をはじめ体育協会、観光協会など多くの関係団体のご支援とご協力、設立当初に比して文化協会らしい組織活動のできる形も整いつつあります。

また、島内文化団体の7割近くが会員として加入くださり、個人会員、賛助会員も増えつつあります。これらの会員さんたちが協会を支えてくださる中心の柱であり、何よりも力強いパートナーです。これに安住することなく、ともに島の文化振興のために、手を取り合って多様な活動をしていきたいと願っています。

島の文化環境は、年々進展し蓄積されていますが、離島に誇れるホール運営や地域にある文化財の整備活用など、新たな課題も多くあります。島民が等しく文化を享受する権利の拡大も視野に据えながら、いつも活動的で、新たなことにチャレンジする協会でありたいと思えます。温かい目線での見守りと率直なご意見などのご支援をよろしくお願いいたします。

総会⇒協会活動の活性化を願い、組織強化と新事業などを提案 芸能文化祭・文化フェス事業を協会の2大イベントに

6月17日夜、三根：富士見地区公会堂で3回目の「八丈島文化協会総会」が約40名の出席で開催されました。協会の活性化を願う組織活動の強化が提案され、八丈島という地で会員や地域とともに歩んで行きたいという、活動の原点を踏まえた意見や要望が多く出され、今年もシャンシャンとすんなり終わらない活発な議論の場になりました。これを少しでも活動に反映させるため頑張っていきます。

総会は山下久美子理事の司会で始まり、佐藤教育長、町議の皆さん、教育庁八丈出張所長等の来賓の紹介のあと議事に入りました。

総会で承認・議決された内容は、事前にお届けした議案書、当日配布した当日資料のとおりですので省略しますのでご了承下さい。

議案審議は会員はもとより、会員でないオブザーバー参加の文化団体の方、来賓の皆さんも含めて意見交換し、更に肉付けされて可決・承認されました

なお、総会議案書その他は「文化協会ホームページ」にも掲載されています。是非、開いてご覧になってください。

【今年度の理事等役員は以下のとおりです。宜しくお願いいたします。】

会長：内山江差夫 副会長：山下和彦 事務局長：山田幸也

会計：山下久美子

理事：浅沼優子 大澤幸一 奥山 隆 金川富一 川上絢子 菊池一明

栗田知美 小泉雅一 佐々木優保 笹本 薫 山下 巧

監事：佐藤 謙 林 薫



八丈島文化フェスティバルボランティアスタッフ
(実行委員・協力委員)募集！



協会では来年1月18日に開催予定の「第26回八丈島文化フェスティバル」のボランティアスタッフを募集中です。会員のみなさまのご参加をお待ちしております！

- ①実行委員 フェスの企画・運営に興味があり、月に1～2回、夜の会議に出席できる方。
- ②協力委員 ご自分のできることをできる範囲で協力していただける方。
- ③広報スタッフ プログラム・ポスター作成のスキルがある方。
- ④WEBスタッフ ブログ、ツイッター、フェイスブックなどWEB発信スキルのある方。
- ⑤当日スタッフ 当日の運営をお手伝いいただける方(受付、舞台設営、駐車場等)

◎応募方法 メールまたはお電話にて8月20日までにご応募下さい。(当日スタッフは随時)

◎応募・問合せ先 協会事務局

メール bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp

電話&FAX 2-2833または090-5817-3266(担当・山下)



☆8・9月のイベント(加盟団体関連、協会後援イベント等)

※詳細はチラシ、ブログ、イベントカレンダーをご参照下さい。

- 【8月】
- 17日 あびの実「ナイトウォーク」 中之郷屋内運動場駐車場集合
 - 22・23日 八丈島JAZZフェスティバル(協会後援) 多目的ホール「おじゃれ」
 - 30日 CHAMPION SELECTOR spin out to 八丈島(個人会員主催) 八丈シーパークリゾートプールサイド特設会場
- 【9月】
- 23日 あびの実「冒険あそび場」
 - 5日 あびの実「むかしの月見を楽しもう～檜立場踊り体験」大賀郷園地
 - 6,7日 第67回八丈島民大学講座 「八丈学入門」

☆加盟団体活動記録(2014年4月～7月)

- 【4月】
- 13日 檜之扇会 第12回 日本舞踊会 多目的ホール「おじゃれ」
- 【5月】
- 6日 あびの実 第19回子どもまつり「一日冒険あそび場」 富士見地区公会堂
 - 11日 花のまち音楽会 八丈混声合唱団出演
 - 11日 之津帆の会 をどり 第18回 八高視聴覚ホール
 - 17・18日 いけばな小原流八丈支部花展 大賀郷公民館
 - 25日 あびの実 第82回公演「風の子バザール」三根小体育館
- 【6月】
- 1日 自然っ子クラブ発足式&火おこし体験 底土キャンプ場ほか
 - 8日 あびの実 「一日冒険あそび場」 垂戸キャンプ場
 - 21日 図書館の会講演会「島おこし・町づくりと図書館」糸賀雅児慶応義塾大学教授 商工会研修室
 - 29日 日本舞踊 八丈檜会 発表会 多目的ホール「おじゃれ」
- 【7月】
- 23日～25日 夏まつり出演
 - 檜之扇会 八丈ウインド・オーケストラ 八丈太鼓月曜会
 - SOKA栄光バンド 八丈太鼓六人会
 - フラメンコサークル Heat UP D→CREW
 - 26日 自然っ子クラブ「八丈小島であそんじゃおう」

会員コーナー(情報をお寄せ下さい!)

☆募集☆

フラメンコサークル

今年から、毎月青山三智子先生にご来島いただけることになりました。

それに伴い、新メンバーを募集いたします。

ご希望の方は下記連絡先までご連絡お願いいたします。一緒に楽しく踊りませんか？

090-9817-9740(青山三智子)または2-4154(大西)





八丈町の文化活動の拠点となる図書館像を描いて

『よりよい図書館づくりをすすめる会』は、「町民にとってより利用され親しまれる図書館づくりを推進する」ことを目的として、1999年1月に発足しました。

以来、図書館のよさを知ってもらうために多くの団体の協力による「図書館まつり」の開催、図書館運営に協力するボランティア、町に具体的な要望の提出など、八丈町図書館の発展を願ってのさまざまな活動をしてきました。

そして、今年度の総会後の講演会は、15年前の発会総会の記念講演で活動の方向を示してくださった糸賀雅児氏（慶應義塾大学教授、中央教育審議会生涯学習分科会委員）に再び講師をお願いしました。『島おこし・町づくりと図書館』と題し、全国の変貌する20以上の図書館をスライドで紹介し、図書館の可能性の広がりを具体的に示してくださいました。

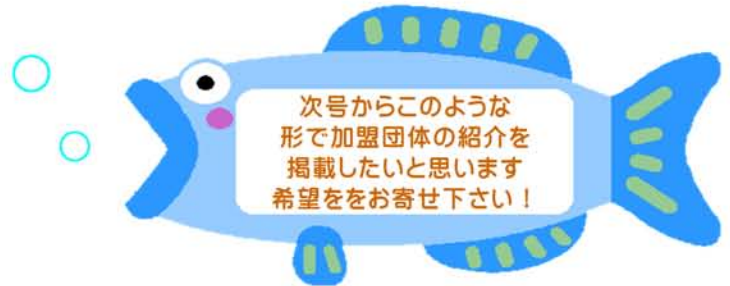
特に「人づくりには読書活動が大事」と「島まるごと図書館構想」を掲げる人口約2400人の島根県隠岐郡海士町の創意工夫に刺激を受け、滋賀県東近江市の地域の環境・医療・福祉・文化などの問題を考えるさまざまな団体が図書館を拠点としてつながる試みもこれからの図書館に求められるものとして大変参考になりました。

図書館は、公共施設の中でもっとも老若男女が利用するところです。個々人の読みたい・知りたいという行動と共に、そこに入り出す人々どうしがつながっていくような支援（講演会・上映会・講座などの企画や文化活動グループの日常的な活動の場の提供など）ができれば、町の文化がさらに豊かに成長できるのではないのでしょうか。それには、多目的に利用ができる新図書館建設が必要ともいえます。

これからの図書館は、地域の文化の拠点となるように行政と住民とでより豊かな構想が立てることによって、島の未来へとつなげていけると感じられる講演会でした。

なお、糸賀雅児氏の詳しい講演内容は、南海タイムス7月25日発行の9ページをお読みください。（八丈町立図書館にありますので、ご利用ください）

「よりよい図書館づくりをすすめる会」代表 笹本 薫



文協コラム《南風》No. 1

◆10月10日で設立2周年を迎えようとしている。会員の要望に応えるには、日常的に活動できる協会の組織体制を創りたいと言うのが、設立当初からの願いだ。それには事務局長のリーダーのもとに、協会事務所と専任職員を含めた事務局体制をつくるのがどうしても必要だ。◆「協会は資金が一銭もないのに、自力で事務所や職員を配置なんて出来っこない」「最初からそんなことは無理だ」等々、異論同論の議論百出だったが、最初の1年は理事の当番制で乗り切った。2年目の今年度は、週3日の午前中だが、パート職員をお願い出来るようになった。他の日は理事が当番で働いている。協会用務が幅広く出来るようになったことは嬉しい限りだ。◆事務局体制の大切さは、おやこ劇場「あびの実」30年の地道な活動から学んだ。あびの実は島で長く文化活動をしてきている団体だが、更に地域文化活動を広げたいと、この6月NPO法人「八丈島あそびと文化のNPOあびの実」として認証され、活動のレベルアップを目指している。設立当初から事務所を持ち、事務局を中心に活動計画の議論をして意思統一を図り続けてきたという。◆「継続は最大の力なり」と、先人はいいことを言ったが、体験すること、実行することの大切さを説いている気がする。行政をはじめ関連団体、島外団体からも声をかけてもらう機会が増えた。忙しくなったが、忙しくなるほどに島の文化環境が変化していくのだなあという充実感みたいなものを感じ始めている。

◆今号から「文協コラム《南風》」として、協会から発信していきたいと思えます。 よろしくお願ひします。

異論・反論を含めご意見がありましたら是非お寄せ下さい。（E・U）